

知床五湖キャッチフレーズへの対応について

○前回協議会では、多くの提案があったが、ヒグマを見に行くための制度としての誤解を与えるおそれがあることから、一旦、事務局で案の検討を引き取ったところ。

○しかし、協議会後に、今回の制度導入の大きなきっかけは、ヒグマ対応であり、ヒグマを全く抜きにしては語れないとの指摘や、キャッチフレーズとは別に、ボディコピー（説明文）で明記すれば足りるとの意見も寄せられた。

○このことから、極力、協議会で公募し、上位3つに選出されたキャッチフレーズを活かしつつ、ボディコピーとの併用により、ヒグマを見に行くものではないことを明確にすることで対応を図るものとする。

キャッチフレーズ（協議会提案）	キャッチフレーズ修正案	修正理由
熊が暮らす森の径 熊が望む空の径 知床五湖を楽しむ2つ目の方法	熊も暮らす森の径 熊が望む空の径 知床五湖を楽しむ2つ目の方法	「熊が」暮らすではなく、「熊も」暮らすとすることで、熊だけの森ではないとの印象を与える。
	熊も暮らす森の径 蝦夷鹿が望む空の径 知床五湖を楽しむ2つ目の方法	高架木道の方を、熊→蝦夷鹿に変更。実際に木道周辺で見られるのはシカであるため)
	ヒグマも暮らす森の径 エゾシカが見上げる空の径 知床五湖を楽しむ2つ目の方法	漢字では分かりにくいいため、修正。望むも分かりにくいので、見上げるとする。
	ヒグマも暮らす森の径 エゾシカが見上げる空の径 知床五湖を楽しむ2つの方法	「2つ目」の方法だと1つ目は、従前と同じとの印象だが、大きくかわるため、「2つ」の方法とする
ヒグマの棲み家におじゃまする2つの方法	ヒグマの棲み家におじゃまする2つの方法 静寂の森の中へ、雄大な景色の中へ	2つの方法の具体的なイメージを提示する
ゆっくりと、ヒグマの棲む森の中へー 風とともに、雄大な景色の中へー 新しい知床五湖の楽しみ方、はじまる。	ゆっくりと、ヒグマも棲む森の中へー 風とともに、雄大な景色の中へー 新しい知床五湖の楽しみ方、はじまる。	「ヒグマの」棲むではなく、「ヒグマも」棲むとすることで、ヒグマだけの森ではないとの印象を与える。
	ゆっくりと、ヒグマも暮らす森の中へー 風とともに、雄大な景色の中へー 新しい知床五湖の楽しみ方、はじまる。	「棲む」という後が、分かりにくいいため「暮らす」に変更。
	ヒグマも暮らす森の径 エゾシカが見上げる空の径 新しい知床五湖の楽しみ方、はじまる。	1番目の案と3番目の案のミックス。

ボディコピー（説明）案
<p>（案1）</p> <p>ヒグマとの共存のため、ヒグマに出会わないように遊歩道を利用することを目指しています。ヒグマ観察を目的としたものではありません。</p>
<p>（案2）</p> <p>知床観光の最大の目的地、知床五湖は、多くのヒグマやエゾシカなど多くの野生動物の棲み家です。野生動物が幅をきかせれば人間が利用できず、人間が幅をきかせれば野生動物が棲めなくなるという状況が2011年から大きく変わります。</p> <p>知床五湖の雄大な風景を手軽に楽しみたい方のためには高架式木道「〇〇〇〇」が、静寂な森の中での散策を楽しみたい方のためには、レクチャーを受けて立ち入る地上歩道「〇〇〇〇」が始まります。</p> <p>また、地上歩道では、ヒグマがよく現れるシーズンには、ヒグマと出会わないように散策するため、プロの〇〇〇が道案内を行います。</p> <p>※本システムはヒグマ観察を目的とするものではありません。</p>
<p>（案3）</p> <p>素敵な知床五湖を体験してもらいたい。その気持ちから、雄大な風景を楽しんでいただくための高架木道が2010年春全線開通します。また、地上歩道では、2011年からレクチャーを受けてルールを守れる人だけが、その静寂な森の径を楽しむことができるようになります。</p> <p>ヒグマが多く棲息する知床五湖では、ヒグマが出没しているときは、遊歩道を歩くことができませんでした。一方、歩ける時には、大勢の人が集中して、静寂な森の雰囲気や植物にダメージをあたえていました。自然と共生しながら、知床五湖の持つ2つの魅力を体験していただくために我々は挑戦します。</p> <p>いつでも安全、快適に歩け、連山やオホーツクの展望に優れる高架木道と、自然にやさしく、ヒグマと出会わないようなルールを守って入る地上歩道。世界で初めての挑戦です。</p>
<p>（案4）</p> <p>年間50万人の観光客が訪れる知床五湖には、ヒグマやエゾシカなど多くの野生生物が暮らしています。</p> <p>手軽に確実に雄大な景色を満喫でき、安全に野生生物を観察できる高架木道と、ヒグマへ会わないような方法を身につけ、ゆっくりと五湖を巡りながら、野生生物のいとなみに近づける地上歩道の2つの道が、野生生物の自由を奪うことなく、原生自然を楽しむ方法として新たにスタートします。</p>
<p>（案5）</p> <p>「野生生物の利用」と「人の利用」、二つの利用が重なる知床五湖で、新たな挑戦が始まります。</p> <p>野生生物より少し高い目線から、知床連山やオホーツク海など雄大な景色が望める高架木道では、野生生物との空間的な棲み分けを図り、誰でも、安全で確実に知床の自然を楽しめます。</p> <p>ヒグマをはじめとする野生生物が生活する地上歩道では、事前にレクチャーを受けて利用することで、野生生物の気配を感じながらも、動物や植物に与える影響を減らし、より静寂でゆっくりと自然に浸ることができます。</p> <p>目的に合わせた二つの利用、新たな知床五湖の楽しみ方です。</p>